



学校報

笑顔と挑戦

井川義務教育学校
第 1 号

令和 7 年 4 月 1 1 日

校訓 青雲大志

ともに学び、挑み続ける児童生徒の育成

3月、32名の卒業生がこの学び舎を巣立ち、12名の教職員とお別れしました。春は別れの季節ではありますが、出会いの季節でもあります。4月7日(月)には、この井川義務教育学校に新しい教職員12名が加わり、8日(火)には元気な新入生16名を迎え、井川義務教育学校の令和7年度がスタートしました。

全校児童生徒数は昨年度より19名減少し、177名となりました。今年も「青雲大志」の校訓のもと、「笑顔と挑戦」をモットーに教育活動を進め、子どもたち、地域にとって魅力ある学校づくりを推進してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

新任の教職員から

◇※※※※※ 校長

秋田大学教育文化学部附属中学校から参りました。子どもたちが笑顔あふれる学校生活を送ることができるよう、全力でサポートします。よろしくお願いたします。



◇※※※※※ 副校長

潟上市教育委員会から参りました。23年ぶりの赴任で、懐かしさと新鮮な気持ちです。次世代を担う井川の子がたくましく成長するように尽力します。よろしくお願いたします。



◇※※※※※ 先生

天王南中学校から参りました。再任用後の採用が本校で大変うれしく思っております。笑顔で英語を話せる子どもたちが多くなるようがんばります。よろしくお願いたします。



◇※※※※※ 先生

潟上市の東湖小学校から参りました。以前勤務した井川小学校では、素直な子どもたちと温かい地域の方々の思い出が残っております。どうぞよろしくお願いたします。



◇※※※※※ 先生

男鹿東中学校から参りました。子どもたちとともに学習や学校行事を楽しみながら、元気で優しい子どもたちが成長できるようがんばっていきたいと思います。よろしくお願いたします。



◇※※※※※ 先生

船川第一小学校から参りました。素晴らしい環境が整うこの学校で、子どもたちと笑顔いっぱいのおどろくする毎日をつくっていききたいと思っております。よろしくお願いたします。



◇※※※※※ 先生

五城目第一中学校から参りました。「ワクワク」を探し、「ドキドキ」を楽しみながら、自分自身も皆さんと一緒に成長していきたいです。よろしくお願ひいたします。



◇※※※※※ 先生

大瀧小学校から参りました。初めての井川町、義務教育学校の赴任となります。子どもたちとの出会いに感謝と喜びを感じながら、一人一人に寄り添っていきたく思います。



◇※※※※※ 先生

大館市の有浦小学校から参りました。2年生から6年生までの音楽などを担当します。井川の子どもたちと一緒に、楽しく学んだり遊んだりできればと思います。よろしくお願ひいたします。



◇※※※※※ 先生

天王中学校から参りました。子どもたち一人一人が笑顔で輝けるよう、保健体育の勉強や学校生活を一緒にがんばりたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



◇※※※※※ 先生

新任で配属となりました。子どもたち一人一人に寄り添い、楽しい学校生活を送れる一助となるように一生懸命がんばります。よろしくお願ひいたします。



◇※※※※※ 校務員

校務員の仕事は初めてですが、子どもたちから元気ももらって皆様のお役に立てるようがんばります。よろしくお願ひいたします。



令和7年度 入学式

新入生16名全員が元気に入学

新入生を祝福するような、柔らかな春の光に包まれ、令和7年度の入学式が行われました。16名の新入生が9年生と手をつなぎ、少しはにかみながら入場してきました。本校ならではの心温まる光景でした。その後、学級担任の呼名に、16名の新入生は元気いっぱいの返事で応えました。



【入場後の様子】

【9年生のエスコート】

入学式では、少しの不安と大きな希望を抱いて入学してきた新1年生に、三つのがんばってほしいことについて話しました。

- ご飯をしっかり食べること
- お友達にやさしくすること
- 交通事故に気を付けること

入学式に参加した2年生から9年生も、大変立派な態度で式に参加していました。



【入学式の様子(2年生から9年生)】

教職員一同、すべての児童生徒に大きな教育愛をもって接し、町・地域の宝である、無限の可能性を秘めたこの子どもたちを大切に育ててまいります。子どもは集団の中で様々な課題と出会いながら、少しずつ自立し、社会性を育んでいきます。学校と家庭が協力しながら、子どもたちを健やかに育ててまいりたいと考えております。ご協力お願ひいたします。

学級・学年・学校の温かい風土

先日の始業式では、「相手意識をもつこと」について児童生徒に話しました。相手意識とは、「文章や会話、言動などの受け手が、どのような人であるかを気にすること」です。相手意識をもつことは、社会生活(学校生活も含まれます)で、よりよく生きるためにとっても大切なことです。相手意識をもつ力が不足している人は、自分中心に物事を考えてばかりいて、人間関係がうまくいきませんし、多くの人たちから信頼を得ることができません。「相手意識」をもつことにより、自分自身の言動を相手の人がどう感じるかを想像し、よりよい人間関係を築くことができます。自分以外の人たちも、充実した学校生活を送りたいと考えていることを皆さんは想像できるはずです。「井川義務教育学校は、学級・学年・学校の温かい風土が根付いた学校」と全校の児童生徒が実感できるように、一人一人が「相手意識」をもって学校生活を送ることを心から願っています。

「一期一会(いちごいちえ)」という言葉があります。「一生に一度の機会。生涯に一度限りであること」という意味です。出会いを大切にすることのたとえとして使います。初めての人との出会いでよく使いますが、同じ人でもそのときの出会いは1度きりなので、全ての出会いにおいて、そのときしかない出会いを大事にするというのが正しい意味です。縁あって出会った児童生徒177名+教職員41名です。このメンバーでの活動は、今年1年しかありません。自分らしさを発揮し、仲間と切磋琢磨し、様々なことを語り合い、井川義務教育学校での生活を楽しみながら、新しい文化を創造してほしいと思います。

学校の様子は
ホームページから



[ホームページアドレスとQRコード]

<http://www.town.ikawa.akita.jp/gimu/>

今年度の教職員

No.	主な役職等	氏名
1	校長	※ ※ ※ ※
2	副校長	※ ※ ※ ※
3	教頭	※ ※ ※ ※
4	学校事務	※ ※ ※ ※
5	養護教諭	※ ※ ※ ※
6	栄養教諭	※ ※ ※ ※
7	教務主任	※ ※ ※ ※
8	教務主任・前期主任	※ ※ ※ ※
9	なかよし組	※ ※ ※ ※
10	さくら組	※ ※ ※ ※
11	中期主任	※ ※ ※ ※
12	1年1組担任	※ ※ ※ ※
13	2年1組担任	※ ※ ※ ※
14	3年1組担任	※ ※ ※ ※
15	4年1組担任	※ ※ ※ ※
16	5年1組担任	※ ※ ※ ※
17	5年1組担任	※ ※ ※ ※
18	6年1組担任	※ ※ ※ ※
19	6年1組担任	※ ※ ※ ※
20	後期主任	※ ※ ※ ※
21	7年1組担任	※ ※ ※ ※
22	7年1組担任	※ ※ ※ ※
23	8年1組担任	※ ※ ※ ※
24	8年1組担任	※ ※ ※ ※
25	8年1組担任	※ ※ ※ ※
26	9年1組担任	※ ※ ※ ※
27	9年1組担任	※ ※ ※ ※
28	2組担任	※ ※ ※ ※
29	3組担任	※ ※ ※ ※
30	A L T	※ ※ ※ ※
31	校務員	※ ※ ※ ※
32	校務員	※ ※ ※ ※
33	学習支援員	※ ※ ※ ※
34	生活支援員	※ ※ ※ ※
35	生活支援員	※ ※ ※ ※
36	生活支援員	※ ※ ※ ※
37	生活支援員	※ ※ ※ ※
38	教育専門監	※ ※ ※ ※
39	スクールカウンセラー	※ ※ ※ ※
40	学校支援スタッフ	※ ※ ※ ※
41	学校サポーター	※ ※ ※ ※

〇〇〇〇〇先生、〇〇〇〇〇先生は、現在、お休みになっています。

校長のつぶやき

子どもが育つ魔法の言葉

□子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる
とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる
「かわいそうな子だ」といって育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる
親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる
広い心で接すれば、キレる子にはならない
誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
愛してあげれば、子どもは、人を愛するようになる
認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる
分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ
親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る
子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ
やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ
守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ
和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

これは、1999年にドロシー・ロー・ノルト博士の著書である『子どもが育つ魔法の言葉』の中にある「子は親の鏡」という詩です。この詩は、「どうしたら子どもをよい子に育てられるか」「どうしたら強い子に育てられるか」「どうしたら人を愛する子に育てられるか」という、永遠のテーマについて書かれた詩です。今もあるか分かりませんが、この詩の日めくりカレンダーも販売されていたようです。

先日、我が家の書斎を整理していたところ、この本を見付け、読み返してみました。私には社会人の息子が二人いますが、「もっと〇〇すればよかった」「なぜ、〇〇のような声掛けができなかったのだろう」など、自分自身の子育てがどうであったのかを想起させる内容ばかりで、改めて子育てについて考えさせられました。